

Costa Rica

SAN JOSÉ

2025
7/22~7/31

2年
安西悠真

サンホセ市

コスタリカの首都。
熱帯圏にあるが標高が1000mを超えていて涼しい。
サンホセとは今年で姉妹都市締結56年になる。



サンホセ市の街並み



コスタリカの国旗

Time Schedule

1日目：出国 移動 サンホセへ
2日目：熱帯雨林へ ホストファミリーと合流
3日目：岡山公園へ サンホセ市内見学
4日目：イラス火山へ、牧場、植物園見学
5日目：ホストファミリーとボルカ国立公園へ
6日目：ホストファミリーの祖母の家
7日目：ビーチへ
8日目：サルチ市見学 サンラモン市コスタリカ大学へ
9日目、10日目：移動 日本へ帰国

Host Family

両親、兄、弟、犬二匹という家族構成です。
兄のLucasは自分と同年で弟は2歳差のEmmanuelです。2人とは一緒にバスケット、川で遊んだりしました。2人は空手をやっていて自分は空手ができないので、日本人の自分が空手を教えてもらいました。ホストファミリーの祖母の家でコスタリカの伝統的なデザートなどを作りました。



Costa Rica's Food

現地では日本では食べることのできない食事をすることができました！

一番美味しかった料理：ガジョピント



コスタリカの国民食。
主に朝食で食べられ、豆と米で作られています。
少ししょっぱい赤飯にコンソメ風の味付けされたような味です。

ピザ生地のようなものはチョアレスと言い、とうもろこしの粉で出来たパンケーキです。生地だけなのでほぼ無味で食べるのは大変でした。真ん中にある黄色いものはバナナのようなブランテンというものを焼いたものです。コスタリカの食事ではほぼ全てに付いていました。

驚いた料理：アロス・コン・レチェ

ホストファミリーの祖母の家でルカスと一緒に作りました。この料理はデザートで、簡単に言えばすごく甘いお粥でした。牛乳で米を煮て、そこにおそらく練乳のようなものを大量に入れたものです。流石に甘すぎで体調が悪くなりかけました。現地の人は普通に食べていて慣れていると違うなと感じました。



コスタリカの豆知識 コスタリカの通貨は¢ (コロン)。このコロンはコロンプスが由来だとか

コスタリカでの交流

2日目はコスタリカの熱帯雨林に行きました。日本の動物園ではなかなか見ることの出来ないナマケモノや、綺麗な蝶やヤマアラシなどを見ることができました。

その後は、在コスタリカ日本大使館公邸にてホストファミリーと交流しました。



3日目はルカス達とサンホセ市内を見学しました。

その中で、岡山公園に行き私たちが作ったはっぴを岡山にあるものと同じ桃太郎像に着せました。岡山とサンホセとの繋がりを、桃太郎像で感じることが出来ました。

4日目はコスタリカのイラス火山へ行きました。ここではみんなのホストファミリーの家族全員が集まることができ、自分のホストファミリー以外の人達とも交流することができました。



5日目、6日目はホストファミリーと一緒に別の都市に旅行に行きました。車で3.4時間くらいのところに連れて行ってもらい、大きな滝の下で泳いだり、ホストファミリーの祖父母の家で伝統的な料理と一緒に作ってました。

7日目はコスタリカのサルチ市とサンラモン市へ行き、JICAの隊員の方がコスタリカでどのような活動を普段しているのかお話を聞きました。



家族とのコミュニケーション

コスタリカの公用語はスペイン語ですが、家族の皆とは英語で会話をしました。全ての会話を英語でしたわけではないですが、翻訳機能を使いながらもコミュニケーションに大きく困ることはありませんでした。

家族との生活

コスタリカで約一週間過ごしてみて、行く前は大きな差があると思っていましたが、実際は日本とあまり大きな違いは感じませんでした。ただし、日本と大きく違ったことは宗教についてです。家族からコスタリカの宗教について教えてもらいました。

今回の交流の感想

私は、コスタリカに行く前はコスタリカは危険な場所だというイメージがすごくありました。しかし、いざコスタリカに行ってみると、現地の人の優しさに触れることができ自分には良くない思い込みをしていたのだと感じました。しかし、コスタリカが日本ほど安全というわけでもなく、身の安全を自分で守りながら生活するというなどの体験をして、今回の交流を通して価値観や生活の違いを感じることができ、自分の知らない環境に身を置く面白さ、大切さを感じることができました。また、日本人が普通なかなか行く機会のないコスタリカに行くことができてすごく良かったです。この素晴らしい経験をサポートしてくださったみなさんに感謝します。

コスタリカ サンホセ市

①どんなところ 岡山市とは1969年に姉妹都市提携を結んだ。

位置 中南米、ニカラグアとパナマの間にある国
国土面積 約5万1000km²、国土の約4分の1が国立公園や自然保護区
標高 国土の約半分が海拔500m以上の高地
気候 雨季と乾季があり、日中は25度程、夜には17度程で肌寒い
公用語 スペイン語(かつてスペインの植民地であったため)
政体 民主主義、軍隊を持たない国として知られている
日本との距離 約13000km
有名物 コーヒー、パイナップル、ルナケモノ
通貨 コロン(10コロン=2.9円)
主食 米や豆
国民性 フレンドリーで陽気な性格
時差 -15時間



②交流したこと

- 自然保護区でいろいろな生物を見る
「ピエレーラ自然保護区」へ行き、ナマケモノや白いコウモリ、色とりどりのチョウなどを見た。
- 日本大使館公邸で夕食会
夕食会の前に派遣団は安全対策のオリエンテーションを受ける。
ホストファミリーと合流し、会話を楽しみながら夕食を食べた
- 岡山公園
サンホセにある岡山公園の桃太郎像には**び**を着せました。
- 博物館、美術館見学
博物館では昔の生物の模型をみたり、科学体験をしたり。
美術館ではコスタリカの先住民たちについて学ぶ。
- ホームパーティー
姉妹都市委員会会長宅でホームパーティー。
コスタリカの伝統的なダンスを教えてもらった。
- 火山を見る
- 植物園でツアー
「ランケスター植物園」で様々な植物についてガイドをしてもらった。
- サルチ市役所を訪問
カレータの作業所の見学をする。屋外最長の壁画を視察。



③ホストファミリーとの休日

私は土曜日に動物園と別荘に行きました。
日本の動物園にはいない珍しい生き物がいて、特にイグアナが普通に通路を歩いていた、カラフルなコンゴウインコには驚きました。
園内を歩いている途中、スコール(突然の大雨)が降ってきました。
私は傘を持っていなかったのでも驚きましたが、ホストファミリーはあまりどうしておらず、なれているのだなと印象に残っています。

別荘に着くと、ホストファミリーの親戚の方が暖かく出迎えてくださいました。
そこでは豚肉やドラゴンフルーツジュース、ココナッツアイスなどを食べました。
コスタリカのアイスは日本よりも鮮やかな色で、味も珍しいものばかりでした。
私は特にココナッツアイスが好きで、四本くらい食べました。
外では鶏やポニー、犬、ハチなどを買っていました。
一日に一回鶏の卵チェックをするそうです。
他にもみんなでパズルをしたり、銃で水風船を打つ体験もさせていただきました。
銃がとても本格的で緊張しました。

夜にはハンバーガー屋さんに行きました。
ポテトは日本のマクドナルドのような感じでした。
ハンバーガーは中身が日本よりも脂っこく、玉ねぎを揚げたものやベーコンなどがありました。

日曜日スポーツセンターとショッピングモールに行きました。
まず最初にテニスのようなバドミントンのようなスポーツをしました。
パウンドしてから打ってもいいし、壁にぶつかっても打って良いという不思議なスポーツでした。最初はうまくできませんでしたが、ホストファミリーのお父さんが熱心に教えてくださったのでだんだんコツが掴めてきました。

次にプールに入りました。ホストファミリーのペアの子が水の中で一回転する技を教えてくださいました。鼻から息をゆっくり吐きながら手をかき混ぜるように動かして回ります。周りの小学生くらいの子達もみんなしていたのでコスタリカの学校ではこれを習うのかなと思いました。

最後にボーリングをしました。ボーリング場は日本とさほど変わりませんでした。

そしてショッピングモールでは、日本へのお土産にコーヒー豆などを買いました。
ショッピングモールは三階建てで、日本とあまり変わりませんでした。

③考えたこと

英語で相手と会話することは本当に難しかったです。
最初は何が聞きたいのかよくわからないこともありましたが、でもホストファミリーの方々は私が間違えた回答をしても、考えるのに時間がかかっても、優しく聞き続けてくれました。
日常の中で実際に会話することで身につくことがたくさんありました。
自分の中で完璧な英文でないとしても、英語を使って話そうとすると頭に浮かんでくる言葉が増えているのを感じます。
よくわからないことがあっても、諦めずにコミュニケーションを取ろうとする意思が大切だと気づきました。
そしてこれは言語だけではなく、文化を知るきっかけにもなると思います。
実際にホストファミリーのお家に住ませていただいたことで文化の異なる生活、思考に対応するために自分の自律性と思考の柔軟性が上がりました。
観光だけでは味わえない文化と生活に触れることで自分自身の成長を実感することができました。

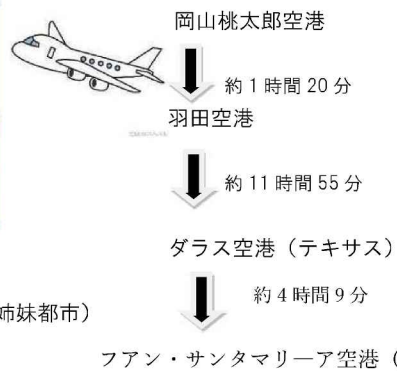


令和7年度岡山市子ども海外派遣【コスタリカ】 佐藤 允宣

Lugar（場所）



Vuelo（フライト）



首都：サン・ホセ（岡山市の姉妹都市）
人口：513万人
公用語：スペイン語
面積：51100 km²（九州と四国を合わせたぐらい）
通貨：コロン
時差：-15時間

ハプニング No.1
荷物が行方不明になる。約20時間後に手元に届く。
教訓
海外渡航の際には最小限のものを手荷物に入れる。

Naturaleza y medio ambiente（自然と環境）

- ◆国土の約4分の1が国立公園や自然保護区に指定されている。
- ◆世界の生物の約5%が生息しており、特に鳥類や蝶類が豊富。
- ◆電力の98%以上を水力、風力、地熱などの自然エネルギーで発電している。
- ◆森林保護によって過去の森林伐採から回復し、国土の約52%を森林が占めている。

↓
これにより動物たちの住処が増え沢山の生物がいる事につながっている。



気候の特徴

- ◆太平洋側：比較的乾燥しておりとくに北部沿岸は乾燥している。
 - ◆カリブ海側：年間を通し、湿度が高く雨が多い。
 - ◆中央高原：標高が高いため年間過ごしやすい。
- 「世界で一番幸せな国」と言われている一つの理由だと思う。

ハプニング No.2

ペースト状の食べ物は苦手
豆をペーストにしたものがよく食事に出了。
離乳食のように口の中がバサついた。



Buena relacion（ホストファミリー）

- ◆けん玉を持参し披露、パパもトライしてくれた。
- ◆お好み焼きと抹茶ムースをこども達と一緒に作り、喜んでもらえた。
- ◆ナイトサッカーをして、言葉が通じなくてもスポーツで関わり合えた。

ハプニング!? No.3

無性に日本食が食べたくなった。
持参したお菓子を食べた。いつもよりおいしかった。

Resumen（まとめ）

今回のコスタリカの派遣を通して、今までぼくがいた環境とは全く異なったことでも恐れずに積極的になる事が大事だと感じた。それにより、ホストファミリーやほかの人たちとうまくかわりあえることができた。また言語が違ってもスポーツや遊びでかわりあえることが分かった。どれだけ日本が安全か、母国語以外の言語を話すことにより、様々な国の人と関わり合えると感じた。

本当にあつという間だったけれど人生で一番濃い10日間だった。

一緒に行った7名とも仲良くなり、たくさんの思い出と感謝の気持ちがあふれたものでした。このような機会をいただきありがとうございました!!

ゆたか、おだやか、こすたりか

佐々木みどり

自然が豊か

コスタリカは中南米にある国です。この国の最大の特徴はやはり自然です。ビーチにいくと猿や虹色の鳥を当たり前のように見かけました。朝は鳥の鳴き声で目覚めることもあったほどです。

コスタリカは世界の面積のおよそ0.03%なのに、地球上の生物の約4%がコスタリカに生息しています。これは一般的にさまざまな自然環境が存在するからだと言われてます。もちろんそれもあります。ですが私はコスタリカに行き、コスタリカに住む人々のおかげで自然が守られているからこの素敵な環境を維持しているのだらうと感じました。



=自然と共に

私たちサンホセ派遣団がサンホセに着いたその日の夜、ガイドさんがコスタリカの紹介してくれました。ガイドさんは『コスタリカは街灯が少ないから夜の道路は暗いのに、コスタリカ人は躊躇なく、ものすごいスピードで車を運転するから事故が起きやすいです。』といいました。これはただ単に街灯が金銭的に増やせないのではなく、自然に対する愛があるからなのです。

街灯を道路につくるとユスリカなどの小さい虫が光に惹きつけられ、街灯の周りに集います。するとその小さい虫をもとめて様々な大きめの動物も道路に出てきてしまいます。その場合車が動物を轢いてしまうこともあり、生態系に影響を与えるのです。このような問題を避けるためにバランスを考え、街灯を設置したり、人間の利便性だけで発展させるのではなく、自然とともに国を発展させていっています。

=自然を守る

コスタリカはまさに失敗から学ぶということを行った国だと私は思います。なにしろ昔から自然とうまく共同で生きていたわけではないからです。1950年から40年間は経済の発展や人口増加の影響で多くの森林が伐採されました。もとは国土面積の75%を占めていた森林が25%まで減少した程です。このままではいけないと思い、コスタリカの国民は森林を復活させる運動をはじめました。私たちが2日目に訪れたピエレーラ自然保護区もそういった思いから、オーナーのウィリアムさんがつくり上げたものでした。そこには一度切り開かれてしまっていた森とは思えないくらい、たくさんの植物が生い茂っていました。さらにその植物に隠れるように多くの生き物も生息していました。私たちはナマケモノや蝶をはじめとする様々な生き物に出会うことが出来ました。森を再生させ、自分の力で自然を守るというコスタリカ人の姿勢がとても魅力的だと思いました。



人が穏やか

=コスタリカン挨拶

コスタリカ人は先ほど言ったようにフレンドリーです。この研修を通して色々な人に会いましたがみんないい人でした。私がホストマザーをみて覚えた大人のコスタリカ人の挨拶の順番は以下の通りです。

1.朝、昼、晩によって挨拶が違うが朝であれば Buenos días(おはようございます)という

2.握手をする

3.相手と頬をあわせる

日本よりスキンシップが少し多いです。日本ではあまりしないようなハグも頻繁にします。

これは日本人からするとあまり慣れないことなので驚きますが、コスタリカでは日本人がお辞儀するようなものなのでしょう。

コスタリカの挨拶といえば Pura vida が有名です。これは純粋な人生という意味で、こんにちは や さようなら など様々な場面で使うことができます。この言葉はコスタリカ紹介などではよく聞くものの、私は日常会話で使っているのを一度しか耳にすることができませんでした。その代わりに私のホストマザーはよく Chao(バイバイ)を使っていました。



=ティコタイム

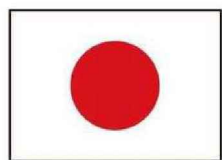
私がコスタリカに行って見つけたコスタリカ人の特徴の一つは時間にルーズということです。もちろん日本でも待ち合わせ時間に遅れてくる人はいます。でもコスタリカは異次元です。なにしろ特定の人が遅れて来るのではなく、みんな遅れてくるからです。

私たちがコスタリカにいた時は毎日ホストファミリーの方達に集合場所へ送迎してもらっていました。集合時間は八時。集合場所まで最低でも15分ほどはかかるうちが家をでた時間は8時。車に乗っているときにホストマザーは『コスタリカ人が集合時間に遅れることなんて日常茶飯事。コスタリカ人が予定に遅れることをティコタイムってよぶの。』と教えてくれました。二十分ほどおくれで着いたうちはなんと3番目でした。あと5人もまだついていない人がいたのです。結局9時に7人は集まることができ、あともう一人は途中から参加していました。コスタリカは渋滞がひどいのでその影響もあります。

日本人は時間に遅れられると少しイラッとしてしまうひとが多いと思います。ですがこの国では時間に遅れることを気にしている人が日本と比べてすくないのだとおもいます。これはどちらがいいというわけではありません。でも世界の反対側に行くとなんか考え方全くなってしまうのだということを学べました。

まとめ

私たちは7泊10日という短い期間での派遣でしたが、コスタリカ？どこそこ？からここでは紹介仕切れないほどたくさんの方々の魅力を見つけることができとても満足しています。結果コスタリカはどこか心を安らげることのできるような、落ち着いた、自由な国だということがわかりました。自分の考え方がまるまる変わるほど刺激を受けることができとてもいい経験になりました。コスタリカ大好き！



コスタリカ SAN JOSE

森山 千鶴
令和7年岡山市子ども海外派遣

コスタリカの桃太郎

サンホセ市南東部の
サンフランシスコ・デ・ドスリオス
にある岡山公園の桃太郎にはっぴを
着せました。



サルチ市

サルチ市はコスタリカ中部にある
町で、鮮やかな伝統的なアートが
有名です。ギネス認定の世界最大
のカレータはとてもきれいでした。
カレータはコスタリカで昔から使
われている牛車です。



コスタリカの民族衣装

コスタリカの民族衣装は
カンペシーナと言って、地域に
よって色や模様が違うそうです。
伝統的なダンスも体験すること
ができました。



コスタリカの自然

コスタリカではワニやサル、ヘビなど
色々な所見たこともない生き物をみる
ことができました。



ホスト ファミリー

ホストファミリーは父・母・姉・弟・猫で、
弟は空手を習っているそうです。
みんなとてもやさしかったです。



コスタリカの海

コスタリカの海は透き
通っていてきれいでした。
魚がたくさん泳いでいま
した！



まとめ・感想

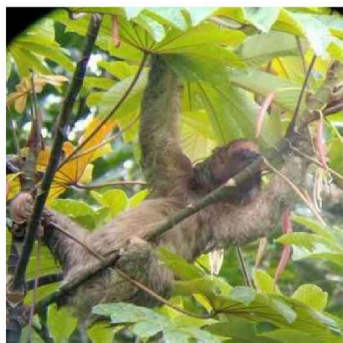
初めは緊張していて不安だったけれど、コスタリカの人た
ちはみんな優しくて安心しました。
英語を使ったり、現地の言葉を使ってみたりしてコミュ
ニケーションをとることができました。
またコスタリカに行きたいです。

【地球の裏での体験】

【高木蒼馬】

地理

コスタリカの首都サンホセ市は、標高1500mで山に囲まれている。日本のほぼ真裏に位置し、湿気が少なく一年を通してとても過ごしやすい気候となっている。コーヒー豆やチョコの原料のカカオ豆の栽培に適しており、コスタリカの特産品となっている。また、ジャングルや国立公園が多くあり、ナマケモノやハチドリといった珍しい生物を見ることができ、生物多様性も豊かである。



ナマケモノ

情勢

中南米のなかでは比較的治安が良い国だったが、1990年代以降、不法滞在者の増加や組織犯罪グループの流入などにより悪化してきている。そのため、有刺鉄線を家の塀などに取り付けている家を多く見かけた。また、人通りが少ない薄暗い通りなどには路上で寝ている人などもあり、ポイ捨てされていたゴミがたくさん散乱していた。

しかし、最近は外国のボランティアなどの協力なども得たりして治安の改善に努めている。するためには他の国、地域、団体と協力していくことが大切ということが分かった。



有刺鉄線が張られた建物

岡山市とのつながり



桃太郎像

岡山市とは1969年に姉妹都市縁組を結んで

おり、コスタリカで大きな地震が起こった時には募金活動を通じて支援を行った。姉妹都市締結40周年の際には市長が訪問するなど長い間交流を続けている。今年の訪問は、26年ぶりであったこともあり、温かいもてなしを受けた。

上面の写真は2002年に作られた岡山公園で小さな滝や池、鳥居など日本らしさが表現され、たくさんの人々が訪れていた。中央の桃太郎像は岡山駅の前にあるものと同じデザインで、記念に作った「はっぴ」を着せてあげることができた。また、20年ほど前に岡山市の幼稚園児たちが送った絵が大事に保管されており、いつまでも交流を続けたいという思いが強く伝わってきた。

日本との違い

自分が一番驚いたのはトイレである。日本ではトイレトペーパーは流すことができるが、コスタリカでは水道管の水圧が低いいため流すと詰まってしまう。そのため、便座の横にくずかごが置いてあり、その中に使ったトイレトペーパーを入れるようになっている。

日本は義務教育は小学校6年、中学3年の9年だが、コスタリカは小学校2年、小学校5年、中学校3年、高校2年の13年間で教育費が無料となっていた。



コスタリカのトイレ

食

バナナとコメが主食、コメは日本と違う品種で

味も異なっており、日本の米のほうがみずみずしかった。また、コメを炊く際に油で炒めたり、調味料で味付けしているため、コメに味がついていることが多かった。そして、バナナや小豆をフルーツなどに使うのではなく料理の一部として使っているということに驚き、場所が変われば食べ物の味付けや食べ方が変化するのとはとても面白いと思った。



コスタリカの昼食

まとめ

今回コスタリカに行ったことで普段できないような経験ができ、日本との違いを発見し、日本がとても恵まれた国だということ改めて感じることができた。この経験をこれからの人生にいかしていき、コスタリカの魅力をたくさんの人にこれからも伝えていきたいと思う。



アカコンゴウインコ

【コスタリカで見て感じたこと】

【黒住久美子】

自然

コスタリカにはたくさんの植物があり、動物がいます。私は滞在中に自然保護区に訪れました。特に印象に残った動物は、ナマケモノや蝶、コウモリ、赤い鳥のケツァールです。どれも日本ではなかなか見ることができず、見ることでよかったです。



蝶の写真



また、火山にも行きました。霧がたくさんかかっていましたが、火山のくぼみにある青い湖がとても綺麗でした。

ほかに山や森には、たくさんの木が生えていたり、牛がいたりしました。

もともと刑務所だった博物館に訪れた時、コスタリカの名産品として有名なコーヒー豆の木もありました。

子豚やヤギにも触れて嬉しかったです。

日本にはいない動物や植物があって、コスタリカの自然に触れられてとても楽しかったです。

文化の違い

日常生活の中でも、日本との違いはたくさんありました。例えば、コスタリカはお風呂に行く時間帯は夜ではなく、朝に入るのが一般的です。お風呂はシャワーだけあり、浴槽がなく、その代わり、家の中にプールがあります。ほかに、キスやハグなどのスキンシップで気持ちを表すことも多いです。最初は少し驚きましたが、すぐに慣れ、今ではとても暖かく感じます。

コスタリカの言語

コスタリカはスペイン語圏です。スペイン語以外にも英語を話せる人もいます。

食事

コスタリカの有名な食べ物の一つに、ガジョ・ピントがあります。ガジョ・ピントは豆と米を炒めた料理です。主食はお米と豆で、フォークとスプーンで食べます。お米は日本と違いサラサラで

細長いです。コスタリカの食事はおいしく毎日楽しみでした。



コスタリカで食べた昼食の写真

コスタリカの人々

コスタリカの人々は、優しく、面白い人ばかりでした。わからない単語や文章があれば、翻訳機を使って丁寧に教えてくれました。日本のことに興味があり、日本の話もしてくれました。おかげで安心して毎日過ごせました。

コスタリカには軍隊がない

コスタリカには軍隊がありません。軍隊のお金を教育や環境保護に回し、自然を守っていることに驚きました。自然を大切に、人を思いやっている国だと思いました。

日本語授業

滞在中、コスタリカの大学に訪れました。その大学で、日本語授業をしている先生に話を聞きました。まず、日本語と国語は違うということを教えてもらいました。国語とは公用語や、共通語のことを言い、日本語とは日本列島に住んでいる国民が話す言葉のことです。体験授業をさせてもらったとき、日本語は表現が難しいと思いました。コスタリカにも日本語を勉強している人がいて嬉しいです。

カレータ

カレータとは自動車ができる前、コーヒー豆などを運ぶための運送手段として使っていた牛車にペイントされたカラフルな幾何学的な模様のことです。カレータは「コスタリカの牛飼いと牛車の伝統」として世界無形文化遺産に登録されています。このカレータを見たとき、鮮やかで色がとても綺麗だと思いました。



プラビダ！（Pura Vida!）

私がホームステイで印象に残った言葉は、スペイン語の「プラビダ！（Pura Vida!）」という言葉です。プラビダという言葉の意味は「良い人生!」「最高!」という意味で、挨拶や別れの時などによく使われます。この言葉にはコスタリカの人たちのポジティブな考えがあらわされていると感じました。

Costa Rica コスタリカ



日本から約23時間で到着するコスタリカはとても自然が豊かな国で、ナマケモノや赤くきれいな羽をしたオウムやヘラクレスオオカブトやサソリ、トカゲを間近で見たり触れたりすることができました。コスタリカで有名なイラス火山やプライベートビーチにも訪れ、その絶景さに感動しました。

気温は20-18度と過ごしやすく、時折にスコールが降ることもありましたが、その国の気候を身を持って体感するととてもいい経験になりました。

コスタリカのレストランではガチョビンという日本で言う豆ご飯が料理で出されました。

コスタリカの伝統民芸品カレータと言われる牛車の制作風景を見せてもらうことができ、人の手では描けないような細かな筆と色使いにより手作業で美しい模様を描いていました。そして木材などを加工する作業場はすべて水車で発電した電気を使用しており、自然への配慮が素晴らしいと感動しました。

コスタリカの人たちは温厚で明るい人が多く、話すことがとても楽しいなど感じました。

スーパーなどの物価は日本よりも高いと感じましたが、コスタリカはカカオ豆やコーヒー豆の名産地であるため、沢山の種類の豆が売られており、どれもとてもおいしかったです。

週末はホストファミリーの家族みんなでリゾートホテルに行き、ゴルフカートで探検をしたりジムや大きな個人用プールで家族の時間を過ごしました。最後にホストファミリーと離れるのが悲しくなりましたが、二人で考えたハンドシェイクを交わし別れの挨拶をしました。



My friends



Scenery

